

<b>プロジェクト</b>	施設園芸で儲かる産地づくり		
<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設野菜経営体数 R2：335経営体 → R10：382経営体</li> <li>トルコギキョウの出荷額（県全体） R4：166,590千円 → R10：175,940千円</li> <li>キクの出荷額（県全体） R4：251,073千円 → R10：258,441千円</li> <li>冬の農業主力品目の面積（県全体） R3：9,384a → R10：9,854a</li> </ul>		
<b>挑戦する内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動に対応した栽培技術の確立等（トマト・ミニトマト、花き、いちご）</li> <li>収益性向上に向けた技術等の確立（花き、いちご）</li> <li>省力化技術等導入支援（トマト・ミニトマト、花き、いちご）</li> </ul>		
<b>関係者の声 ＝対話</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動に対応するため、基本的な生産管理を徹底することが必要である（生産者）</li> <li>大雨や豪雪等の異常気象に対する被害防止対策が必要である（生産者）</li> <li>若手指導者を対象に、基本的な栽培技術や高温対策等を研修し、現場での指導力向上を図っていききたい（全農あおもり）</li> <li>よつぼしを、単価の高い年内に安定して収穫できるよう、栽培技術を確立してほしい（生産者）</li> <li>今後も見込まれる生産者の減少に対応して、省力化・労働力不足対策に取り組んでほしい（JA）</li> </ul>		
<b>役割分担</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全農あおもり、JA：販売戦略、研修会及び共進会開催協力、現地指導、実証ほ等設置運営、消費宣伝活動</li> <li>産技センター：高温対策等の異常気象に係る試験研究と技術の開発、栽培技術の確立試験への協力</li> <li>県：研修会及び共進会開催、現地指導、現地普及展示ほの設置、園芸産地における事業継続計画の作成・実践等支援</li> <li>花のくにつくり推進協議会：流通効率化の検証、消費宣伝活動</li> <li>青森県農業再生協議会：施設園芸等燃料価格高騰対策事業による支援</li> </ul>		
<b>変革後の姿</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動に対応した栽培技術の確立による安定生産</li> <li>省力化など、労働力不足対策による、産地の維持</li> </ul>		

## 令和8年度計画

## 挑戦する内容

- 気候変動に対応した栽培技術の確立等
  - 夏場の高温に対応した花き生産技術の開発・実証（農総研）
  - 遮光資材など高温対策技術の導入・支援
  - トマトにおける塗布剤など高温対策技術の検証・現地実証（農総研、全農あおもり）
  - 高温対策等に関する若手指導者向け講習会の開催（5回）
  - 施設での雪害防止に向けた指導者向け研修会の開催やリーフレットの作成・周知（4,500部）
  - 生産管理チェックシートを活用したトルコギキョウの生産指導
  - 栽培管理技術向上に向けた青森県花き共進会の開催（全農あおもり、県）
- 収益性向上に向けた技術等の確立等
  - 「よつぼし」の栽培技術確立、現地実証（農総研、実証ほ設置2か所）
  - 収益を確保できる新たな花きの品目等の栽培技術開発（農総研）
  - 県産花きの認知度向上に向けたあおもりフラワーウィーク及びあおもりフラワーフェスティバルの開催（花くに協議会）
- 省力化技術等導入支援
  - 省力化機械導入支援、省エネ設備・資材の展示会の開催

## 対話

- 部会や研修会等の場を活用しながら、意見を聞き取り、事業構築に反映（7月～1月）



トマト・ミニトマト  
生産技術研修会



施設園芸の  
自動かん水・施肥装置